

大野岳

教育目標「ふるさとを愛し 夢・志をもつ児童生徒の育成」

～ふるさとに学ぶ ふるさとを学ぶ ふるさとの人と共に歩む～

令和5年12月22日発行 文責 校長 中尾 聡彦

2学期を振り返って

今年の夏は、これまでに経験したことがないほどの暑さに悩まされました。また、秋が短く、気がつくとも冬が来たと感じたのは私だけでしょうか。

2学期を振り返ると実に様々なことがありました。

「本物との出会い」という点では、「夢の実現～カーネギーホールでの演奏～」と題して墨谷夫妻に来校いただき講話と授業を行っていただきました。また、6年生を対象にした「モデルロケットチャレンジ教室」、5年生から8年生を対象にした「巡回バスケットボールスクール」等々、児童生徒にとっては素敵な出会いがあり、その出会いの中で様々なことを感じてくれたことと思います。

また、12月7日（木）には、7年生、8年生を対象に南波多町青少年育成町民会議の主催で「地元の起業家と語る会」を開催していただきました。今年度の講師は、前田正光様（前田餅屋）でした。前田様の話が始めると、生徒たちはたちまちその話の世界に引き込まれていきました。若い頃に苦労されながらも、その苦労を前向きに捉え乗り越えられたことや、最後には生徒たちに「自分らしく！」というメッセージを贈っていただきました。思春期で様々なことに悩み、心揺れ動く生徒たちにとって、「自分は自分らしく生きていけばいいんだ。」というメッセージは心に響いたことと思います。このように、南波多町の事業の一つとして学校の教育活動にお力添えをいただいていることを本当にありがたいことだと思っています。また、「南波多こども教室」では多くの地域の方々にご来校いただきました。学校のあるべき姿として「地域と共にある学校」という言葉がありますが、南波多郷学館は、保護者の方々をはじめ地域のご理解とあたたかいご支援の中で様々なことに取り組むことができます。学校も「ふれあいまつり」や「南パタピカリン大作戦」「大野岳清掃」等々で地域に恩返しをしていきたいと考えています。今後も、「地域と共にある学校」であり続けたいと考えています。



あいさつ・へんじ日本一

本校は、「あいさつ・へんじ日本一」の記念碑が来校者を迎えます。このスローガンの歴史は古く、20年数年間、多くの卒業生や教職員、保護者の方々に大事にされてきたものです。そのような歴史もあって、毎朝、地域の方々にあいさつ運動に立っていただいています。しかし、最近、気持ちのいいあいさつが十分できているかと言うとそうとは言い切れない状況にあります。また、どちらかと言うと前期課程よりは後期課程の生徒が気持ちのよいあいさつをしてくれます。

ご家庭ではいかがでしょうか？「おはようございます」「行ってきます」「ただいま」「おやすみなさい」「こんにちは」等々のあいさつができていますでしょうか。あいさつは、コミュニケーションの基本中の基本です。どんなにICTやAIが発達した社会になったとしても、あいさつは、あたたかな人間関係を築く上でも欠かすことのできないものだと思います。

南波多郷学館の子どもたちが、将来にわたってあたたかな人間関係の中で生きていくことができるように、一度、ご家庭でわが子の「あいさつ」「へんじ」がどうであるのかを振り返っていただければと思います。

2学期の終業式（校長講話）

2学期を終える今日、皆さんと一緒に考えたいことがあります。

みなさんはマザー・テレサと言う人を知っていますか。この方は、貧困（まずしき）や病（病気）に苦しむ人々の救済（救うこと）に生涯をささげ、ノーベル平和賞を受賞した偉大な方です。このマザー・テレサが残された言葉にこんな言葉があります。

「あなたは、この世に生まれてきた大切な人」

この言葉の意味を考えてみてください。あなたのことを大切だと考えてくれる人の顔を思い浮かべてください。誰の顔が思い浮かびましたか？

次に、あなたが、そういう存在であると言うことは、隣にいる人はどんな存在なのでしょう？そうです。あなたと同じように、その人のことを大切に思ってくれる人がたくさんいる、そんな存在なのです。

「みなさんは、一人一人がこの世に生まれてきた大切な人です。」

明日から冬休みになります。

冬休みは、家族や親せきと過ごす機会が多いと思います。

みなさんを大切に思っている人と素敵な時間を過ごしてください。

そして、その方々の思いを感じてほしいと思います。